

令和6年度第1回広島市立図書館協議会 会議要旨

日 時	令和6年8月9日（金） 午後1時30分～午後3時30分		
場 所	中央図書館3階 セミナー室		
公開・非公開の別	公 開	傍聴人	7名
出席者	委 員：林委員、庄委員、武川委員、村上委員、矢野委員、前田委員 事務局：木本生涯学習課長、長谷中央図書館長、下土井中央図書館副館長、 佐藤中央図書館事業課長、田渕こども図書館長		

議 事（会議要旨）

1 開会

2 議事

(1) 図書館事業について

<説明>

資料1に沿って中央図書館副館長が説明

<質疑等>

(武川委員)

利用状況について教えてほしい。7ページの図書館の登録者数と利用者数について、大体どこの図書館も登録者数に対して、利用者数が1.6倍程度である。利用者数と貸出数をカウントしたときに、区の図書館はほとんど1.2から1.7倍くらいの貸出数だが、中央図書館だけ0.68と、他の図書館に比べて、半分若しくは3分の1の数値しか出ていないのは、何か要因があるか。

(中央図書館事業課長)

中央図書館がほかの図書館と違う点だが、自習室を利用してくださる方が大変多いので、そういったことも関係があると思う。

(庄副委員長)

同じく、利用状況の表について、令和4年度と令和5年度を比較したときに貸出数が減っているように思う。利用者数、開館日数が増えたのにもかかわらず、貸出数が減っていることについて、何か原因等があるか。

(中央図書館長)

詳細については分かっていないが、利用者アンケートを取ったり、適宜ヒアリングをしたりしながら、分析を進めようとしている。

(林委員長)

昨年度のことを踏まえて、今年度も継続するものと、変えていくもので特色はあるか。

(中央図書館長)

例えば、夜の図書館で、「図書館でひろしま夜咄」というタイトルを付けて、広島にまつわる様々な物事を体験型の講座で実施しているが、2回開催したばかりで手探り状態である。その都度アンケートを取り、夜の時間帯の講座であれば、どんなものを学びたいか、どんなものであれば来

たいと思うか、というようなアンケートを繰り返して、次の題材を選んでいる。

また、満足度が高いものを取り入れていきたい。やはり、お酒の講座の場合は、試飲が付いている、実際体験ができるということを喜ばれる。

それから、音楽について、これまで中央図書館は静寂を理念とする図書館であったため、音を出すことはおおよそなかった。新しいことにチャレンジしてもいいのではないかという御意見もたくさんいただいているので、今までできなかったことを実験的に行っていきたい。エールエールA館に移転し、立地条件、立地状況を考えたときに、これまでとは毛色の違ったイベント等を組んでいく必要があり、実証実験の段階として進めている。

(2) 中央図書館の移転整備の進捗について

<説明>

資料2に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(前田委員)

スケジュールを伺いたい。移転をして、蔵書も移すと思うが、ここ（現中央図書館）はいつまで使えて、どこから閉まって、移転が始まるのか。

(生涯学習課長)

工事が終わるのは令和7年度の半ばになっており、その後、移転を含めた開館準備をしていくことになるので、どこかのタイミングで休館、利用については制限をすると思っている。

(前田委員)

こちらは完全に止まる期間はないのか。

(生涯学習課長)

その辺りは調整をさせていただいている。

(前田委員)

確定していないのか。

(生涯学習課長)

確定していない。

(前田委員)

承知した。

(矢野委員)

内観イメージで、広々とした窓で開放感あふれると思ったが、日が降り注いでいるので、本が日焼けしないのか。カーテンを閉めれば、せつかくの開放感がとも思うが、配置でそうならないようにするのか。あくまで、イメージでこうなっているということか。

(生涯学習課長)

基本的には Low-E ガラスという金属がコーティングされている窓ガラスで、紫外線等はかなりカットできる。あとは、ブラインドも設置することになっている。基本的には、そういった影響がない所に図書を配置するような形を想定している。

(矢野委員)

8階の「こどもと青少年のエリア」の車椅子置場があると思うが、車椅子で来られた方の置場か。

(生涯学習課長)

ここの車椅子置場は、利用者の車椅子が、仮に置かれているイメージでパースの中に描かれている。利用していただくための車椅子は、別の所に配置する。

(矢野委員)

調子が悪くなられた時に使われるのであれば、他の階に見当たらず、AEDと一緒に分かる所にあればと思った。

(村上委員)

図面を見ていくつか教えていただきたいことがある。

まず、10階から。平面図の左下の辺りに対面朗読室が2部屋ある。後の議題で読書バリアフリーに関するものもあがっているが、この対面朗読室前の網目で塗られている部分に障害者サービス用資料が配置されるということか。

(生涯学習課長)

網目で塗られている部分は、床面の違いを表現しているものである。網目部分の斜め右下の方に拡大読書器や音声読書器を設置する予定であり、この辺りを使っていただくイメージである。

(村上委員)

障害者サービス用のメディアが対面朗読室の辺りに集められるということか。

次に9階について、同じく左下の方に「ビジネス相談室」「ビジネス支援情報コーナー」とある。以前、ビジネス支援サービスについて紹介していただき、そのようなサービスもあるのかと感心した。ただ、現中央図書館では、自由閲覧室Bに「ビジネス支援情報コーナー」があり、そのすぐ隣に「高校生のための職業ハッケンコーナー」がある。これがエールエールA館移転後は、高校生向けのコーナーは8階の「ヤングアダルトコーナー」へ行き、分かれるように思うがどのような配置となるのか。

また、ビジネス支援のためのデータベース等は、現中央図書館では3階の参考閲覧室にある。今、データベースと本の情報コーナー、高校生等若い層へのキャリア支援のものが分かれているが、不便はないのか、それとも、一新して一か所に集約した方がいいのか。集約する場合、青少年のコーナーへの配置になるようにも思うが、どのような形を考えているのか。

(中央図書館事業課長)

決定ではないが、御紹介いただいたとおり、ビジネス支援関係については、現在自由閲覧室Bに大人向けのものと高校生向けのコーナーがある。そのほかに3階の参考閲覧室にもビジネス関係の図書を置いている。移転後は、高校生向けのものについては8階の青少年向けコーナーに配置し、それ以外のものを9階の「ビジネス支援コーナー」に集約する形で検討している。

(村上委員)

この協議会の前に少し書架を拝見したが、一般向けと高校生向けの資料を明確に分けるのは難しいのではないかと思った。近くにあればそれぞれを手にとって見られるが、分けると難しい面もあるのではないか。検討中とのことなので良い形になればと思う。

次に、8階の「こどもと青少年のエリア」については後ほど詳しく説明いただけると思うが、図面上で気になったことを尋ねたい。エスカレーターそばに「面陳列7段」という書架がある。ここは本の表紙を見せて展示する「面出し」を行う書架だと思うが、7段はどれくらいの高さになるのか。

(生涯学習課長)

高さとしては2mを少し超えるぐらいである。全ての段に配架するかは今後の検討である。

(村上委員)

この階はこどものフロアであり、特に図面下側は児童書コーナーに面している。こどもは2mの高さにある本は目に入りにくいと思うので、これは必要なのか疑問に思う。面出しをするのは読書意欲をかき立てるためであり、そういったコーナーがたくさんあるのはよいことだと思うが、高書架は最近のはやりである一方、高い所にある本は結局ディスプレイだけとなり、実際に手に取るのは難しい。特に、ここはこどものコーナーであり、7段という高い書架が必要なのか少し疑問に思う。

また、同じく8階についてだが、多目的室と図書館の利用時間は同じなのか。

(生涯学習課長)

利用時間はまだ検討中である。例えば、青少年センター利用者の利用なども考えられるため、そういった点も含め、引き続き検討していく。

(村上委員)

多目的室を分けて使うことができる設計になっているのか。

(生涯学習課長)

区切りはできるので、分けての利用も可能である。

(村上委員)

要請が多いことなので、ゆくゆくは開館時間の延長などもあり得ると思うが、現状、中央図書館は平日午後7時まで、土日祝は午後5時までである。一方、多目的室は、公民館や青少年センターの開館時間を踏まえると午後9時、9時半までの開館も考えられると思う。そのため、区切って使えないと、思うような使い方ができないのではないかと思った。

次に、8階右上「来館者用エレベーター」ホールところに「自動返却機」がある。これは、ほかにも何か所か設置される予定なのか。

(生涯学習課長)

各フロアに複数台配置する予定である。10階に1か所、9階に1か所、8階が2か所である。

(村上委員)

図面上で10階の返却機が見つけられない。どの辺りになるのか。

(生涯学習課長)

10階の返却機は、図面では示されていない。場所としては、中央やや左寄りに「カウンター等」とあり、その付近に1台設置する予定である。

(村上委員)

館内にあるということは、図書館の閉館時には使えないということか。

(生涯学習課長)

そうである。

(村上委員)

9階の右上にある返却機も自動ドアの内側なので、閉館時には使えないということか。開館時にカウンターに列ができていれば返却機を使うこともあるかもしれないが、どちらかというと休館日に利用があるのではないか。

(生涯学習課長)

返却機とは別に、ブックポストの設置を検討している。

(村上委員)

開館時間外や休館日に利用できる、中区図書館では1階エントランス前にあるようなブックポストが設置されるということか。

(生涯学習課長)

そうである。

(村上委員)

エールエールA館のメリットは、駅からペDESTリアンデッキでつながっていることだったと思う。どのようにつながるのか詳細は分からないが、8階や9階に上がらずに、ペDESTリアンデッキからすぐのところで返却できる、若しくは、駅で返却できるといったことができれば良いと思う。

(生涯学習課長)

御意見いただいたことも考えていきたい。

(村上委員)

福屋駅前店のジュンク堂には返却ポストがあったと思うが、階が変わった後はどうなっているのか。

(生涯学習課長)

現在もジュンク堂に設置している。

(村上委員)

今後も継続するのか。

(生涯学習課長)

全体としてどうするのかを、今後検討していく。

(村上委員)

1年前に図面を見た際にもいろいろと聞かせてもらったが、きれいな図面が出てくると、また新しい疑問が出てきて質問させてもらった。

(林委員長)

先ほども話があったように図書館の階まで行かなくても返却できるなど、そういった全体像が今後示されるといいように思う。

(前田委員)

移転スケジュールについて、先ほど今後検討するとの話であったが、もう来年度のことである。現中央図書館が閉まる期間や全体的に使えない期間があるのであれば、来年度事業が各所で検討されている中で、「図書館とのタイアップで何かしたい」、「場所を使いたい」と思っているところもあると思う。ずっと使えるものと思って予定される可能性もあると思うので、もう少し早く休館等のスケジュールを出した方がいいと思う。是非、検討いただきたい。

(生涯学習課長)

鋭意検討を進めながら、早めに情報が出せるように努力していきたい。

(庄副委員長)

以前も伺ったかもしれないが、図面が出てきたところで改めて確認したい。現在は、学習やビジネスなど様々な場面でパソコンなどの機器が欠かせなくなっている。自習室などもあるが、全館的に電源やW i - F iについてはどのような考えか。

(生涯学習課長)

基本的に、W i - F iは全館でつながる状態となる。また、カウンターでデジタル機器が使えるよう整備している。

(庄副委員長)

カウンターとは、図書館のサービスカウンターのことか。

(生涯学習課長)

例えば、8階で中央吹き抜けの右側がカウンター席になっている。こういった所には、機器が使えるような設備を設けたいと考えている。

(庄副委員長)

自習室にはそういった設備はないのか。

(生涯学習課長)

自習室には予定していない。

(庄副委員長)

いろいろな部屋が細かく分かれている設計になっているが、W i - F iはきちんとつながるの

か。

(生涯学習課長)

W i - F i は自習室でも使える状態とするが、個別に電源を取る設備を設ける予定はない。

(庄副委員長)

電源については設備的な面もあると思うが、先日、海外からのお客様を案内する機会があり、市内にはW i - F i がなく、連絡が取れず苦勞した。せつかなので、図書館内でW i - F i が利用できるようなれればと思った。

(林委員長)

要求の度合いも高くなっており、使い勝手の良い図書館を目指さなければならない。

(3) 中央図書館のこどもと青少年のエリアについて

<説明>

資料3・4に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(村上委員)

3万6千冊の新たな図書を購入するという話であったが、以前、8階のフロアには6万冊配架すると聞いたように思う。大きく減っているのはなぜか。また、3万6千冊は「乳幼児コーナー」、「絵本コーナー」、「児童書コーナー」、「ヤングアダルトコーナー」で大体何冊ずつ購入する予定か。

(生涯学習課長)

3万6千冊の児童書に加え、「ヤングアダルトコーナー」には既に中央図書館が収集している一般書も配架するよう考えている。さらに、今回8階フロアに配架する図書を全て買い切るわけではなく、今後、収集を進めることを含めて、全体を6万冊にするということである。

(村上委員)

新しくなった時点で全てをそろえるのではなく、徐々にそろえていくということか。

(生涯学習課長)

基本となる資料としては、児童書を3万6千冊購入するのと、一般書を1万2千冊程度配架する予定であり、開館時の冊数としては4万8千冊程度となる。その後、全体を6万冊想定とすると、1万2千冊を順次買い足していく計画となる。

(村上委員)

以前は、開館時に6万冊を新しく買うという話を聞いたように思う。8階フロアについては、中央図書館がヤングアダルト向けに既に収集している図書なども併せて、4万8千冊からスタートし、最終的に6万冊にするということか。

6万冊を新規購入すると聞いた際には、購入費は再整備費用に含まれるのかと思ったが、順次買うとなると図書館の資料購入の費用を増やす必要があると思う。今でも、毎年金額が変わらなくても、1冊の値段が上がっているの、冊数としては少しずつ減っているように感じる。そういった点については配慮していくのか。

(生涯学習課長)

計画的に購入を進めていくための配慮については検討していきたい。

(村上委員)

予算がなくて買えない、中央図書館再整備によって他の予算が削られるといったことがないよう、予算を付けていただきたいと思う。

次に、資料3の2ページ目「2(2)イ(イ)」のプレイスペースについてのところに「ボードゲーム」がある。これは初めて出てきたと思うが、どういったことを想定しているのか。

(中央図書館事業課長)

8階のエリアは人々が交流する機会の提供や居場所づくりを行うフロアであるため、その目的を踏まえ、ボードゲームが年代を問わず遊べるものであり、交流を促進するツールとされていることから、そういったツールを活用することがこのフロアの機能を充実させていくと考えている。

(村上委員)

私自身ボードゲームが好きで、効果についても理解しているつもりである。資料には、「ボードゲーム等を活用したイベントの実施」とあるが、これはイベントの時にだけやるのか、いつでも利用できるのか。

(中央図書館事業課長)

図書館が行うイベントで活用するとともに、備えているものを使いたいといった場合にも、プレイスペースで自由に使ってもらうことを考えている。

(村上委員)

いつ行っても利用できるようにするということか。以前、フィンランドのオーディ図書館について教えてもらったが、そこは様々な人が集うために、ボードゲームだけでなくパソコンゲームなどもできる部屋があるということで驚いた。中央図書館では、とりあえずボードゲームを導入されるということで理解した。

続いて、資料収集方針の改訂について、改訂日が7月31日となっており、改訂後の報告であったが、これはどのような手続を経て改訂されたのか。

(生涯学習課長)

改訂については、市としての資料を作成するというので、市内部での所定の手続を踏んでいる。内容は、図書館と協議した上で決めたものである。大まかな方向性については、「広島市立図書館再整備方針」や「広島市立中央図書館等再整備基本計画」の策定の中で示しており、その具体化の作業を行ったものである。

(村上委員)

中央図書館で児童書も収集することになるが、中央図書館の「こどもと青少年のエリア」とこども図書館がどのようにすみ分けていくのかをとても心配している。資料収集方針では、資料4の2ページ目に「区図書館に準じたものとする」と書かれているが、具体的にはどのようなところが違うのか。

(生涯学習課長)

こども図書館は、これまでと同様にこどものための専門図書館として、区図書館への児童書関連の情報提供やレファレンスサービスの支援等を行う児童サービスの中央館として、引き続き機能を果たしていくことは変わらない。

中央図書館の「こどもと青少年のエリア」については、これまで中央図書館になかった機能を設けるものではあるが、区図書館に近い位置付けであり、こどもたちの読書環境の充実や新たな居場所として整備するものである。中央図書館の「こどもと青少年のエリア」は中央館機能を持ったものではなく、一方、こども図書館についてはこれまでどおりの中央館としての機能を今後更に充実しながら発揮するイメージである。

(村上委員)

区の図書館とこども図書館ではっきり違うのは、区の図書館は、書棚に並んでいる本だけで、蔵書というか、保存はしていないという認識だが、そういうことでいいか。中央図書館には書庫がたくさんできるが、児童書に関して保存は行わない。表に出ているものが全てか。

(生涯学習課長)

少なくとも、中央図書館では(児童書の)網羅的な収集はしないという形になるので、基本はこども図書館のように書庫に保存する形ではなく、区の図書館に近い形である。

(矢野委員)

先ほどプレースペースの話が出て、私もボードゲームは面白いのだろうと思って聞かせてもらった。ボードゲーム等ということで、こういうイベント外で、ボードゲームを貸し出せるのは分かったが、それ以外でどういうことを想定されているのか。

加えて、設計図を見ると、スペースが書架で区切られているのではないと思うが、楽しいことをやっているというのを館内の他の人にも知ってもらおうという意味合いがあり、こういうスペースがあるのかなと思う。例えば、多目的室するわけではないということは、そういうことなのかなと思う。

一方で、黙々とカードゲームをしているイメージはなく、何か少し声が出たり、楽しい雰囲気だろうと思っており、静かに過ごしたいという方との共存や運用、他のフロアの運営の仕方考えがあるか。

(生涯学習課長)

プレースペースだが、資料3の別紙を見ていただくと、書架があって区切られた空間になっている。外の静かさが保てるかどうか、運用のなかで対応していくことになると思う。

(中央図書館事業課長)

もう一点の質問で、(プレースペースの)ボードゲーム以外での利用の場ということがあったと思うが、一般の閲覧席としても十分本を読んでいただいたり、そういうことはできるものと認識している。

(庄副委員長)

今、「ヤングアダルトコーナー」、「プレースペース」の辺りにすごく集中しているが、私はこの青少年というと、中高生ぐらいの年代かと思うが、この年代の読書から離れている感じ、ギャップというのが非常に気になっており、そういう意味では多少図書館ににぎやかになっても、明るい雰囲気楽しい場所として認識していただいて、今回、せっかく駅の近くにもなるので、これ

まで図書館を利用していた、若しくはなかなか利用できなかった中高生たちが、ここを自分たちの居場所として活用できるようになってくれるとすごく良いのではないかと考えている。

他方、広島県、広島市は外国人の方も多い。インバウンドで観光に来られる方や広島について学ぼうと思っている方も多いが、昨今は、ある程度の期間、こちらに住んで仕事をして、若しくは学校に行ってしまう方も非常に多くなっているのではないと思う。それらの方々は、日本について学ぶために留学しているとしても、そればかりで24時間365日過ごすだけではないと思うが、実際に広島にいと、本を買う場所がない、本を借りる場所もないということを訴えられることがある。普通に読む本、若しくは普通に何かを調べるときに使う場所がない。外国語もいろいろあるが、確かに広島市内には一番メジャーと考えられる英語の資料も買う場所がほとんどない。大きな書店でも非常に数が少ないという状況はあると思う。

以前に、今はもうなくなってしまっていてバックンモーツアルトとなったが、国際会議場の所にあった小さい外国語の図書室や、多分辞めてしまわれたと思うが市内の洋書の古書を扱っておられるお店を紹介して大変喜ばれたこともある。今後、グローバルな世界に向かっていくときに、駅前という大変恵まれた人通りの多い立地に設置されるこの図書館で、日本語ではない、若しくは観光とか学びの目的ではなく、広島市に滞在する方へのサービスが収集方針に出てくると思ったが、ぴんと来ないところもある。この収集方針はできてしまったものなので、これはこれでやっていただくとして、今後の図書館の展開の中で少し考えていただきたいと思う。実は、もう既に考えていますということがあればお伺いしたい。

(中央図書館事業課長)

中央図書館では、高校生以上向けということで、現在は自由閲覧室B室に、多文化コーナーを設けている。こども図書館では、絵本で様々な言語のものをそろえている。エールエールA館移転後も、多文化コーナーも設けて、資料の充実を図っていきたいと考えている。

(林委員長)

8階が「こどもと青少年のエリア」だが、そこで閉じるのではなく、上へ上がっていくような形にしてほしい。こどもが、もっと詳しいことを知りたいときに、ここでしか駄目みたいなことは絶対にはいはずであり、それを9階、10階につないでいくような仕組みを作ってもらいたい。例えば、先ほどビジネスのことが出たが、「ヤングアダルトコーナー」で職に関することを調べていく、それをビジネスのコーナーへ行くような流れを作って、8階から9階、10階という形でつながっていくような仕組みを考えていただけたらと思う。

(4) こども図書館再整備について

<説明>

資料5に沿って生涯学習課長が説明

<情報提供>

(生涯学習課長)

ここで1点情報提供がある。既に報道等で御覧になられたかと思うが、こども本の森について情報提供をさせていただく。世界的な建築家である安藤忠雄氏から、こども本の森という施設を本市に整備し、寄附したいという意向があることを伺っている。

こども本の森は、安藤氏が自らの体験を踏まえ、「人間の心の成長にとって、最高の栄養は本である。」との思いから、自らの資金を投じて建設をされているもので、これまでに大阪市、岩手県遠野市、神戸市、熊本県に順次建設されている。

現在、広島市にもそういった意向があるということで協議を進めており、こども図書館の隣接

地が整備の候補地として挙げられている。本市としては、こども図書館の隣接地にこども本の森が整備されれば、本市の目指すこどもの読書環境の充実を一層図ることができると考えており、現在、安藤氏側とこども本の森の実現に向けて協議を進めている。現在、具体的な内容が決まっているという段階ではない。今後、整備の方向性が固まった段階で、改めて報告をさせていただきたい。

<質疑等>

(村上委員)

資料5の主な意見のところで、「今回展示したゾーニングで既に反映されているもの又は今後の設計等に反映するもの」に線が引いてあると書いてあるが、どれがどれなのかよく分からないので、既に反映されているものがどれなのか教えていただきたい。

(生涯学習課長)

資料5の1枚目、「2 (2) こども図書館について」の話だが、現在反映できていると考えているのが、「④こども図書館を1階の1フロアに集約するのはよい」、これについては反映できているのではないかと考えている。それ以外の下線が引かれているものについては、今後検討が必要だと認識している。

(村上委員)

図書館のところだけかもしれないが、共用部分などについては分かるのか。文化振興課か。

(生涯学習課長)

共用部分で、両方に関わるものであるが、いずれも御意見として頂いているものなので、今後検討する内容だと認識している。

(村上委員)

今、ゾーニングで既に反映されているとか、実現できていると考えられているものは、(2)④の1フロアに集約するということだけ。その他の線が引かれているものについては、これから実施設計で実現していくということか。

(生涯学習課長)

今後、基本設計の段階で検討していきたいと思っている。

(村上委員)

承知した。

(林委員長)

先ほど議事3の中で出てきた、「こどもと青少年のエリア」の8階の部分。さらに、こども本の森という形で寄贈があるとすると、すごく充実してくるが、そういうフロアができてくることに対して、活用はどんなすみ分けをしていくのか。そういうところは検討までしていないのか。

(生涯学習課長)

こども本の森がまだ協議中の内容なので、決定ではないというのが前提としてあるが、今後、こども本の森がこども図書館の隣接地にできるというような形になったときに、利用される方々の近くにある、両方使われるという形も考えられるため、それぞれの考え方や運営の方針、そう

いったところを併せて考えていかなければいけない部分も出てくるのではないかと考えている。基本的には、こども図書館は現在策定している基本方針に沿って充実を図っていくため、それをやりつつの話になるかと思う。

(林委員長)

一つ心配なのは、パイが大きくなれば、それに見合うものがお金の問題というか、財的な保障を市はどのように考えているのか。ここで答えられる問題ではないと思うが、その辺のところを少しプッシュしていただけるような仕組みは考えておられるのか。

(生涯学習課長)

こども本の森は、本市としても前向きに考えていきたい。整備や運営に関して、基本的には、整備は安藤氏側がされるということだが、運営の段階になると、やはり市の方で何らかのすみ分けが必要になってくるだろうと思っているため、それは進めていく上で、併せて考えた上で、協議することになっていくのではないかと考えている。

(林委員長)

協議会として要望を出さないといけないのではないかと。要するに、こども図書館や中央図書館に、こども、青少年向けのものが増えてくるとなったときに、それを充実させていくということ、せっかくできたものを貧弱なものに終わらせたくはないというのが一つ。

それから、一般図書に対して、こどもの図書の方は傷みも速いのではないかと心配を持つ。そういう面で、何か生涯学習課として、図書館そのものの在り方をこんなふうと考えているんだということがあれば、それを協議しながら、予算的な面でも協議会として要望が出せるものなら、そういう性質のものではないと言われるとそうかもしれないが、ちょっと心配になってきたところである。

(村上委員)

今、林委員長が言ってくくださったように、建物は寄附でお金は掛からないが、その中に入れる本はどうか、微妙である。安藤氏が寄附してくださるのか、広島市が準備していかないといけないとなると、こどもの読書環境が充実していくのはうれしいけれども（心配がある）。

また、一旦頂くと何十年と運営していかないといけないから、その辺は有り難いと言っってもいられない。先ほどすみ分けとおっしゃったが、すみ分けて、どういうふうに全体をうまく運営していくのかとそこまで考えないと、有り難いと言っただが、他の図書館の予算がそっちに取られてしまって、なんだか貧弱なことになっては悲しい。

6月に突然降って湧いた話で、私もびっくりしたが、しっかりよく考えないといけない議題だと思う。実は、中之島や神戸は図書館ではない。文化施設という扱いらしい。熊本は、県の図書館の下部組織になって、一応図書館という扱いにはなっているそうである。遠野も図書館ではない。図書館でないならここで協議するかどうかもちっとよく分からないが、でもやっぱりこどもの本を置いている施設で、全く無関係とも言えないので、もっと議論する場を設けていただけたらと思う。

(5) 読書バリアフリー計画について

<説明>

資料5に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(庄副委員長)

「障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく」という部分に非常に感動したが、障害があるかどうかということに限らず、読書に何らかの困難を覚えるということは、いろいろな意味であるかと思う。

是非進めていただきたいと考える一方で、今回御報告いただいた内容は、主に障害のある方を対象に考えているのではないかと思う。市の参考資料で挙げているものも、やはり障害者のための様々な計画をもとに進んでいるように思える。

私も詳しくないが、障害といってもいろいろな種類があり、市内には障害者若しくは難しい方の支援や訓練に当たっている組織や団体がたくさんあると思う。そういったところとの連携や支援について、今後何か考えがあるか。

(中央図書館館長)

障害者にとって優しい図書館は、健常者にとっても優しい図書館であると思っている。そういう観点から「誰でも」ということは、とても大事なことでと考えている。

ちょうど今、中央図書館の移転の最中であり、これからの大きな課題になっているが、障害者の団体や、障害者のボランティアが活動されているような団体との更なる連携は必須だと考えている。

また、障害ということではないが、特に中央図書館では健康支援というところにも力を注いでおり、例えば難病の患者会との連携、医療関係の方との連携、認知症関係の方との連携を行っている。

誰でも楽しめる。誰でも使える。誰でも来たい。そういった図書館を目指して、私たちも視野を広げ、より多くの団体の方と連携を進めて行き、そういった方々のニーズを踏まえていきたいと思っている。

(庄副委員長)

議題1の「図書館事業について」の中で、大学図書館との共催事業として「認知症ブックカフェ」の話があった。来館利用がなかなか難しい方も大勢おられると思うので、今後の連携や支援の発展の方向性に期待をさせていただきたい。

(前田委員)

読書バリアフリー法に基づく整備は、市全体で取り組まれることだと思うが、設備面やツール、整備にコストが掛かるものが多くあるのではないかと思う。もちろんやるべきだが、予算化はちゃんとされているのか。そこはなかなか難しいのが実態だと思う。

図書館だけではなく、公民館など、いろいろな市の施設と共通的に整備できるものがあるのではない。いろいろな市の所管課と仕事をさせていただく機会があるが、正直、皆縦割りで、横で何かをするということがない。誰が音頭を取って何をするのかということが大変なのだと思いますが、設備やツールの整備というのは、むしろ複数で一緒にやった方が価格も抑えることができ、競争性も働くので、単体で何かをするということではなく、共通的に行っていただきたい。

それから、時期がいろいろあるかと思うが、むしろ多少遅らすとか早めるなど、無理やりでも少し合わせてやった方がコストメリットがあり、全体として良いものが入るのではないかと思う。

(生涯学習課長)

御意見は持ち帰り、組織間で共有したい。

(林委員長)

学校教育の中でも、視覚障害者等の「等」の中には幅広く入ると思う。本日は教育委員会の指導課の方が出席されていないので少し残念だが、学校教育との連携の中では、こういったことに取り組まれているか、分かれば教えていただきたい。

(中央図書館館長)

その辺りは本当に課題がたくさんある。学校の図書館の担当の先生や学校司書の方が、こども図書館や中央図書館に訪ねて来られることがあるが、その際、障害者サービスが話題にあがるので、例えば、特別な配慮が必要なこどものための書棚を「りんごの棚」と呼んでおり、こういった名称のところから話をしたところ、「いいことだから学校に広げていきたいですね」と言ってもらえたということが先日あった。小さなことだが、一歩ずつ地道な積み重ねをしていきたいと思っている。

もちろん「広島市子供の読書活動推進のための取組」や「読書バリアフリー計画」といった市の計画を共有しながら、学校の先生方の来館を通して、また校長会等に出向いて一緒に考えていき、一緒に何ができるかをしっかり検討していくということは大事だと考えている。

(林委員長)

障害者計画の「事業・取組」として記載されている元となるものは、議題1の「図書館事業について」の中の「障害者サービスの充実」というところで、既に積み上げてきてもらっているように感じた。まだこれでも足りないということや、ここを充実させていきたいということがあれば教えていただきたい。

(生涯学習課長)

読書バリアフリーに関しては、昨年芥川賞を受賞された方が障害当事者で、読書バリアフリーについて呼びかけをされている。作家や出版社といった幅広い動きが今後出てくると思っており、こういった形の読書バリアフリーの在り方が良いのか、全国的な議論が進んでいくのではないかなと思う。そういったところを注視しながら考えていきたい。

3 閉会

(林委員長)

これをもって、本日の会議を閉会とする。